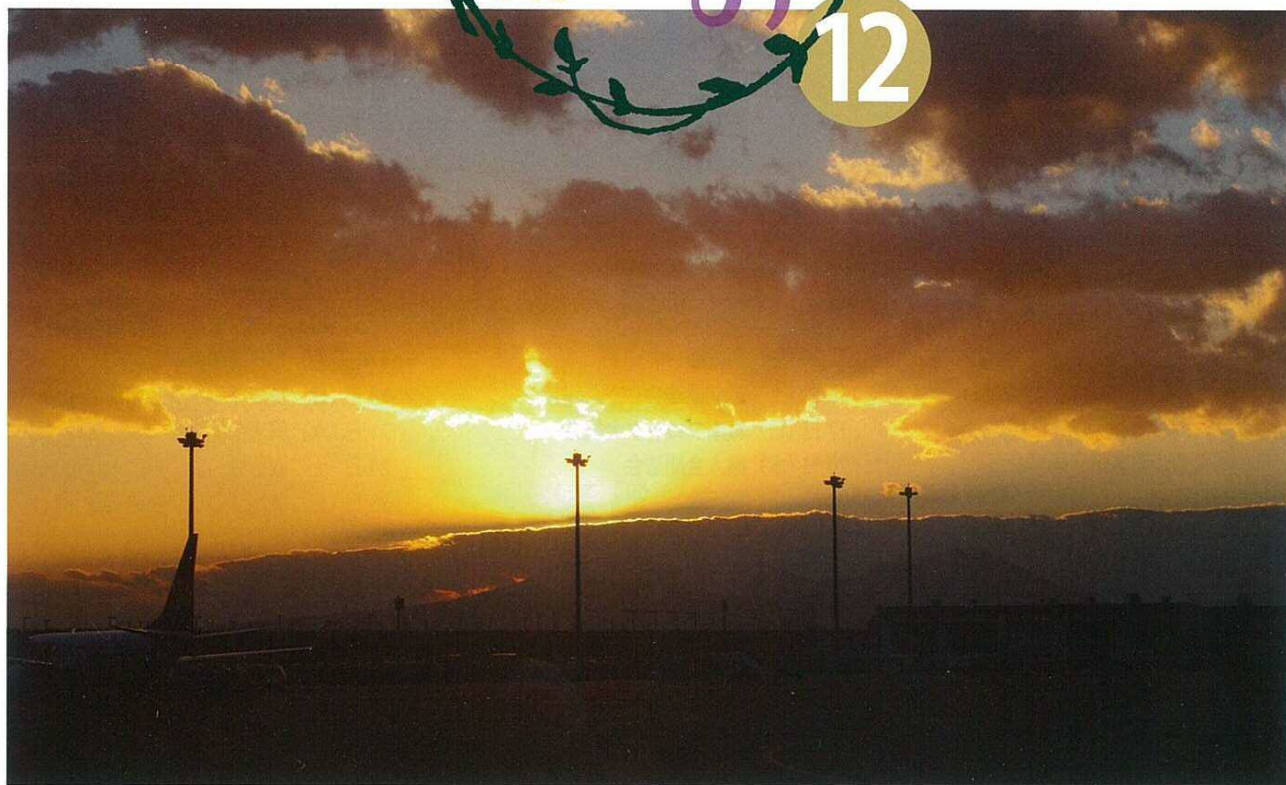


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



あっという間

一年を最も振り返る時期である。十二月は、一年の締めくくりであり、また新年を迎える準備期間である。慌ただしい日々の中で、一年を振り返ると「あっという間だった」と感じてしまうが、なぜそう思うのだろうか。

一年間何をしてきたのかと振り返ってみると、毎日、何かしらの出来事に追われていた。物事が片付かないまま、また新しく問題が発生し、忙しく毎日を過ごしていた。そして、それを不思議には思わなかった。

ところが、年末になって、ふと今年は何をやってきたのか、また来年も同じ事を繰り返すのかと思う。しかし、同じ一日、同じ一年は二度となく、そう思い込んでいた自分が明らかとなる。

一日一日は新しい。それを毎日同じようなものにしていったのが私達であり、だから「あっという間」と感じてしまうのではないだろうか。私の思い込みは、周りの人や出来事によって気づかされる。その気づきこそ私の在り方を知らせる仏法である。改めて教えを聞くことの大切さを思うとともに、沢山の方々から願われていた私に出会う。

(高橋 淳 記)

平成27年 西徳寺のあゆみ



(予定を変更する場合があります)

1月

元旦(木) 修正会
10日(土) 合唱団エコー練習
11日(日) 婦人会新年会
17日(土) 定例聞法会
18日(日) 評議員会新年会
24日(土) 同行会新年会・合唱団エコー練習
27日(火) 仏教青年会

2月

4日(水) 婦人会聞法会・
東京教区坊守研修会
7日(土) 合唱団エコー練習
8日(日) 城東ブロック会聞法会
14日(土) 同行会
21日(土) 定例聞法会・合唱団エコー練習
22日(日) 城南ブロック会聞法会
24日(火) 仏教青年会座談会
28日(土) 同行会

3月

7日(土) 評議員会定例役員会・
合唱団エコー練習
8日(日) 城北ブロック会聞法会
10日(火) 仏教青年会レクレーション
14日(土) 同行会・合唱団エコー練習
18日(水) ～24日(火) 春季彼岸会
22日(日) 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・
春季永代経法要
28日(土) 同行会修習式

4月

5日(日) 中央ブロック会聞法会
11日(土) 同行会
15日(水) 婦人会総会
18日(土) 定例聞法会
25日(土) 同行会
28日(火) 仏教青年会総会

5月

9日(土) 同行会
16日(土) 定例聞法会
17日(日) 城南ブロック会総会
20日(水) 婦人会聞法会
23日(土) 同行会
24日(日) 城西ブロック会総会
26日(火) 仏教青年会

6月

6日(土)・7日(日) 仏教青年会研修旅行
13日(土) 同行会
14日(日) 城北ブロック会総会
17日(水) 婦人会聞法会
20日(土) 定例聞法会
21日(日) 評議員会総会
27日(土) 同行会
28日(日) 城東ブロック会総会

7月

4日(土) 同行会
13日(月) ～16日(木) 孟蘭盆会
(10日よりお盆のお参りに伺います)
22日(水) 婦人会聞法会
28日(火) 仏教青年会夏季ミーティング

8月

13日(木) ～16日(日) 孟蘭盆会
30日(日) 青年会主催バーベキュー大会

9月

5日(土) 同行会・評議員会定例役員会
8日(火) 仏教青年会
12日(土) 定例聞法会
16日(水) 婦人会聞法会
20日(日) ～26日(土) 秋季彼岸会
22日(火) 秋季永代経法要

10月

10日(土) 同行会
11日(日) 中央ブロック会総会
17日(土) 定例聞法会
18日(日) 城東ブロック会聞法会
21日(水) 婦人会聞法会
24日(土) 同行会
25日(日) 城南ブロック会聞法会
27日(火) 仏教青年会座談会

11月

4日(水)・5日(木) 婦人会一泊旅行
7日(土)・8日(日) 報恩講
14日(土) 同行会
15日(日) 城西ブロック会聞法会
17日(火) 仏教青年会報恩講
21日(土) 定例聞法会
22日(日) 城北ブロック会聞法会
28日(土) 同行会

12月

12日(土) 同行会
16日(水) 婦人会聞法会
19日(土) 定例聞法会・
評議員会定例役員会
31日(木) 歳暮法要

日誌

10月18日	定例聞法会 混声合唱団「エコー」 台東区合唱祭出演	10月27日・28日	宗祖忌
10月19日	城東ブロック会(小岩区民館 参加者23名)	10月29日	仏具磨き(お手伝い参加者12名)
10月25日	混声合唱団「エコー」練習 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 高橋 淳	11月1日・2日	報恩講 両日布教使 福井 憲雄師
10月26日	城南ブロック会聞法会 (世田谷区 太子堂レンタルスペース SF 参加者21名)	11月5日	婦人会日帰り旅行 (箱根方面 参加者26名)
		11月7日・8日	中興忌
		11月8日	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 蓮井 邦宗
		11月9日	城西ブロック会聞法会 (中野商工会館 参加者15名)

源信僧都は、すべてを救う阿弥

陀仏の大悲心にふれて、殺生しなければ生きていけないのに、自分の力のみで生きていけると思う傲慢さに気づき、自分は「悪人」「重悪人」いや「極重悪人」であると認められました。それで、僧都が居られた比叡山・横川の恵心院の前には、「南無阿弥陀仏・極重悪人無他方便・唯称弥陀得生極楽（極重の悪人は他の方便なし。ただ弥陀を称して極楽に生を得）」という石碑が建っています。この『往生要集』の言葉の重さを、親鸞聖人は「極重の悪人は、唯仏を称すべし」と讃えられます。

続いて「我亦」といわれる我は、極重悪人です。そして、その我は「我亦、彼の摂取の中に在れども」といわれるように、阿弥陀仏の摂取の大悲の中にありながら、それにも気づかずどこまでも逃げようとしている、無他方便（自分の側からは、阿弥陀仏の国へは橋が架からない）の身を知らされつくした我です。と同時に、すでに極重悪人のままで摂取の中に追われ取られていた事実、阿弥陀仏と出遇えた我でもあります。

この出遇いの感動が、南無阿弥

陀仏、「唯仏を称すべし」であります。「唯仏を称すべし」は、阿弥陀仏の呼びかけを聞かれた、僧都の応答であるとともに、われらをお念仏の道に導いてくださる励ましでもあります。それで、聖人は、僧



正信偈の話 ④ 松井憲一

極重悪人唯称仏 我亦在彼摂取中 煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我
(極重の悪人は、唯仏を称すべし。我亦、彼の摂取の中に在れども、煩惱、眼を障えて見えてまつらずと雖も、大悲倦きこと無くして常に我を照したまえりと。)

そして、「煩惱 眼を障えて見えてまつらずと雖も」といわれます。スーパージのレジだけでなく、大事な方のお別れのお焼香でも、短い列に並ぶ癖のあるわれらは、いつも煩惱の眼の身です。そういう、

煩惱の眼に合った思い通りの生活をするのが、救いだと思わないうわたり、眼を覚ませと呼びかけてくださるのが、阿弥陀仏の大悲です。しかし、煩惱の身のわれらは、その眼も煩惱で出来ているのですから、自分からは覚ますことも直すことも出来ません。煩惱の眼では、阿弥陀

都の教えを「極悪深重の衆生は他の方便さらになし ひとえに弥陀を称してぞ 浄土にうまるとのべたまう（『高僧和讃』）」と讃えられるのです。

らは見えないけれど、阿弥陀仏（真実・真理）の側からは見えているということです。どうしようもない煩惱を抱えて、多くの地獄を見た僧都が獲得した境地、見えないけれど見られている、願えないけれど願われている世界の発見、讃嘆であります。

それで、親鸞聖人は、「煩惱にまなこさえられて 摂取の光明みざれども 大悲ものうきことなくて つねにわが身をてらすなり（『高僧和讃』）」と和讃されます。そして、「大悲ものうき」の「ものうき」について「モノウキコトイウハ、オコタリナルココロ、ナカレトナリ」と左仮名を振られます。つまり、阿弥陀仏は、どのような状況にあらうとも、つねに煩惱の身を怠るころなく照らしてくださるから、安んじてお念仏申されると仰せられるのでしよう。

ここに、清沢満之先生が「絶対他力の大道」の中で、「請う勿れ、求むる勿れ。爾、何の不足がある。もし不足ありと思わば、是れ爾の不信にあらずや。如来は、爾がために必要なるものを、爾に賦与したるにあらずや。」といわれた心境が思いあわされます。

山門の言葉



津波のあと 老女生きてあり 死なぬ

東日本大震災のニュースを見ていて自然に浮かんだという金子兜太の句です。

NHK特集「94歳の荒凡夫（あらばんぶ）〜俳人・金子兜太（かねことうた）の気骨〜」で俳人の金子兜太（かねことうた）さんは、「人間を、社会を深く見る連中は、命というものにぶつかっています。これは間違いないです。最後は命。私もこの歳（94歳）になつてきて、やっと「存在」ということを見つめているうちに「命」というようなものを見るようになった」と語られました。

番組のナレーションでは「本能のままに自由に生きる『荒凡夫』、この『荒凡夫』という言葉は小林一茶の言葉で金子さんは自分の人生を重ねて、生き物の根元命の尊さを実感しながら生々しい人間を詠んでいます」と伝えます。

金子氏は番組で「一茶は、60歳の時に毎日毎日短い日記をつける人で、正月の文にこれから自分は『荒凡夫』で生きたいと書いている。私はそこから見つけた言葉ですが、煩惱にしたがって生きた男で全く値打ちがないやつだと、だからもうこんな男はこのまま死んでしまえばいいのだから、しばらく生けるだけ生かしてください、それで『荒凡夫』で生かせてください、ということを書いているんですね」と話していました。一茶の『荒凡夫』を、金子氏は「平凡であって自由である」生きかたと受け止めた。

金子氏の選んだ一茶の句を紹介します。

是がまあ つひの栖か 雪五尺
人誹る 会が立つなり 冬籠

（岸本 秀一 記）

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

北区	小山 幹夫 様
台東区	森下 幸雄 様
我孫子市	塚本 泰弘 様

西 徳 寺 報 恩 講

「心の奥底にある願い」

布教使 福井 憲雄 師

去る11月1日(土)2日(日)、西徳寺本堂にて報恩講が勤まりました。今年も両日ご法話をいただいたのは新潟県・三条市・徳誓寺のご住職、福井憲雄師でありました。

ご讃題に「^{むげこうによらい}無碍光如来の^{みょうごう}名号と^{ちそう}かの光明智相とは^む無^{みょうじょうや あん}明^は長夜の闇を破し^{しがん}衆生の志願をみてたもう」という和讃をいただかれ、阿弥陀様の光明は私たちの志願を満たすのだといわれました。

岐阜県にある大谷派寺院の坊守さんで、がんのために41歳で亡くなられた平野恵子さんという方は三人のお子さんに恵まれました。ところが、長女が1歳のころ脳性小児麻痺になり、自分では全く起き上がれないような状態になった。平野さんは障害を抱えた娘の将来に絶望し、一時は一緒に死のうとまで思い詰められたそうです。

ある日、遊び疲れて帰ってきた長男が妹に対して「ゆきちゃんは可愛いね。家族の宝物だもんね」と頬ずりしながらいったその言葉に、平野さんはまるで金槌で頭を殴られたような衝撃を受けました。それまでは娘のことを厄介者としか思わなかった、自分の狭いものさしに閉ざされていた。^{だいむりょうじゆきょう}『大無量寿経』のお言葉に^{しんそくいへい}「心塞意閉」とありますが、自分の思いの中で迷い、はからいに閉じこもる姿を無明といわれます。

何気ない長男の言葉によって闇が破られ、身勝手に間違いだらけのものさしに閉ざされていた我が身が照らし出された。自分自身が照らされることによって闇が破られる、その阿弥陀様の光明を^{しんとくかいみょう}「心得開明」という言葉で表されています。

娘の存在は宝物だといわれるようないのちの尊さ、本当の願いを^{しかん}志願といわれ、それは私たちの心の奥底にしまわれている願いなのです。その願いに応えてくださるのが南無阿弥陀仏のはたらきであり、親鸞聖人がいただかれた道であるとお話くださいました。(木村 専正 記)



今年も 光り輝く仏具で 報恩講のお勤め!

〔お手伝いくださった方々〕順不同

前田 篤彌 様	橘 悦子 様
谷口 博一 様	土谷 茂久 様
柿沼 一郎 様	猪口 可津子 様
鬼武 裕子 様	鈴木 弘子 様
長尾 将男 様	坂口 実祥 様
高崎 勝子 様	鶴見 和代 様

晴天に恵まれた10月29日(水)、12名の皆様から「仏具磨き」を手伝っていただきました。初参加の方もおられましたが、職員が説明をする間もなく作業が始まり、熱心に仏具を磨き込んでくださいました。お磨き以外にも本堂や第1会館待合室の椅子を水拭きしていただき、とても綺麗になりました。

午前中の作業が終わり、恒例のカレーライスで昼食。今年はヒレカツが加わり、皆様にはとても好評のようでした。

皆様のお陰により、「報恩講」はキラキラ輝く仏具でお勤めさせていただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

(木村 専正 記)



掲示板 平成26年12月

2日(火) 午後4時 総代会
6日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
13日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」
法話 岸本住職
17日(水) 午後1時 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く

18日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第10回)
講師 宗正元師
20日(土) 午後1時半 定例聞法会
午後3時半 評議員会定例役員会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
31日(水) 午後3時 歳暮法要

城東ブロック会

去る10月19日、城東ブロック会聞法会が小岩区民館にて開催されました。担当の仲井君に第一子が誕生され、それにともない今回は山崎が代行させて頂きました。

書記の橋本晃一様がご逝去され、土谷茂久様が継承された旨を加藤廣会長より報告がありました。また今回は城南ブロック会より津久田愛之助様がお越し下さいました。

法話では、私達の煩惱は生活している環境の中で生まれてくるものと、生まれながらにして自分そのものに執着するものがあり、お念仏はそういう我が身を明らかにする道であると教えて頂きました。質疑でも生まれながらの煩惱への驚きの声が聞かれました。

懇親会でも会員さん同士が語り合い、活気ある会となりました。私自身も古巣の城東ブロック会ということもあり楽しいひとときを過ごさせて頂きました。

次回は**平成27年2月8日(日)「市川八幡神社」**にて開催予定です。ふるってご参加下さい。

(山崎 哲 記)

城南ブロック会

去る10月26日(日)午後2時より、世田谷区太子堂「レンタルスペース SF」に於きまして、第86回聞法会を開催しました。



聞法会に於いては、積極的に質問される方が多く、質疑の時間が足りなくなる程でした。

又、懇親会では会員の方から趣味や特技についてのお話もあり、初参加の方にとっては親しみやすい会になったように思います。

次回は**平成27年2月22日(日)**を予定しておりますので、お誘い合わせの上お気軽にご参加下さい。

(大橋 伊知郎 記)

城西ブロック会

去る11月9日(日)、中野区商工会館において城西ブロック会が今年度2回目の聞法会を開催しました。参加者13名中4名が初参加ということで、聞法会にも活気があふれていました。

聞法会では岸本住職から、阿弥陀仏の本願は智慧と慈悲によってあらわれ、私たち凡夫の姿を照らし出し、いただいておるいのちの尊さに目覚めさせるはたらきであり、それは絶えず南無阿弥陀仏という名号になってよびかけら



れているのだといわれました。

懇親会は場所を移して開かれ、同じ鍋を突きながらお互いに意見交換をさせて頂き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

次回は**平成27年5月24日(日)**、場所は**中野商工会館**の予定です。大勢のご参加、お待ちしております。

(木村 専正 記)

編集後記

師走とは師匠の僧がお経をあげるために、東西を馳せる月「師馳す(しはす)」という説があります。そのほかに年が果てる「年果つ(としはつ)」や一年の最後になし終える「為果る(しはつる)」からとする説があるようです。

親鸞聖人のご和讃に「本願力にあいぬれば むなしくすぐるひとぞなき」とありますが、気がつけばもう年が暮れようとしてい

る現実の中で、本当に大切な依りどころは何かを勧めてくださっている、聖人のよびかけが思い起こされます。

西徳寺ホームページアドレス:

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com